

2015年度 決算説明会 <主な質疑応答>

開催日 : 2016年5月10日

出席者 : 代表取締役社長 中村 邦晴

専務執行役員 高畑 恒一

執行役員(主計部長) 諸岡 礼二

インベスターリレーションズ部長 田村 達郎

利益計画について

2016年度及び2017年度の利益計画の考え方を教えて欲しい。

2016年度は、資源価格の下落の影響により資源ビジネスが2015年度比で減益となる。鋼管を除く非資源ビジネスについては、船舶市況低迷、OTO/SOF持分低下及び中東における自動車ビジネスの落ち込み等の影響があり、2015年度並みで推移すると見込んでいる。

2017年度は、資源ビジネス及び鋼管事業については、市況の一定程度の回復を見込む。また、その他非資源ビジネスについては海外電力事業やミャンマー通信事業などが順調に伸びることに加え、既存ビジネスも成長すると見ている。

キャッシュ・フロー計画の修正について

資産入替による回収9,000億円(当初計画より5,000億円増)の内訳を教えて欲しい。

9,000億円の資産入替による回収計画のうち、約6,000億円は低採算・低効率ビジネスからの撤退を含むポートフォリオの入替。残りの3,000億円は、営業資産や在庫の圧縮などによるワーキングキャピタルの削減。中期経営計画初年度である2015年度実績において、それぞれ2,000億円強のキャッシュを創出している。

ポートフォリオの入替に優先順位はあるか。また、達成確度を教えて欲しい。

各部門において低採算・低効率ビジネスは存在し、特定の分野において優先的に進めるというものではない。足元では収益が出ているものの、将来の成長性が見込めない事業についても同様に入替を行う。2016年度及び2017年度では、戦略的に資産入替を推進するための体質改善コストとしてそれぞれ200億円の費用を見込んでおり、覚悟を持って進めて行く。

ワーキングキャピタルの減少による資金回収は、シクリカルなものも含まれているが、達成確度を教えて欲しい。

2015 年度におけるワーキングキャピタルの減少は、太宗が鋼管事業であった。今後、鋼管事業の環境が回復した場合においても、顧客のニーズに応えつつ、慎重に営業資産の積増しや在庫管理を行っていく。また、鋼管事業以外においても、キャッシュを創出できる余地はあると見ている。

キャッシュ・インが不足した場合、有利子負債返済、配当、投資の優先順位はどうなるのか。

中計発表時からお伝えしている通り、まずは投資を調整する。当面は厳しい事業環境が継続すると見ており、有利子負債を返済し、財務体質強化を優先したい。配当は、中長期的に安定して行くことを基本方針としており、出来る限り計画通り配当は維持していきたい。

投資計画について

新規投資計画が 400 億円と計画(4,000 億円)比少ないように見えるが、その理由は何か。

2015 年度は大型案件が少なかったこと、また、計画していた案件が交渉の関係でずれ込んだこと等が主な理由。今後、各分野において相応の投資を予定しており、計画通りに進捗すると見ている。但し、従来から説明している通り、投資額ありきではなく、案件を精査しキャッシュ・フローの状況を見ながら投資を行う、との規律に変更は無い。なお、投資の意思決定プロセスを変更したが、時間を要しているものは一定規模以上の大型案件であり、部門長決裁権限を拡大しスピード感を持って取り組む案件と、多段階審議等で時間をかけて慎重に審議を行う案件に分けて取り進めている。

資源上流権益の投資計画が増えているのは何故か。

(高畑) 既存立ち上げ中案件に関し、市況が低迷している環境下、資金拠出が当初計画よりも増加したため。なお、当初より投資額 1,000 億円は既存立ち上げ中の案件に対するものであり、新規投資は基本的には計画に織り込んでおらず、その方針に変更は無い。

個別案件について

<アンバトビー>

プロジェクトの資金繰りの状況はどうなっているのか。

(高畑)昨年9月の完工以来、プロジェクトに対し、当社とKORESで約50百万ドルの資金拠出を行っている。足元のニッケル価格及び操業率を前提とすれば、半年間で同程度の資金拠出が必要な状況と見ているが、今年の夏以降に予定されている法定修繕の影響により若干増える可能性はある。プロジェクト・ファイナンスの返済については、レンダーとも協議のうえ、対応していく。

足元の価格が継続した場合、どのような経営判断が考えられるのか。

状況に応じて、あらゆる選択肢を検討していく。

<鋼管事業>

今後の収益回復に向けた具体的な計画を教えてください。

2017年度の市況は、未だ回復途上と見ている。本格的に回復した際に着実に利益を生み出すべく、体質の強靱化に取り組んでいる。

<TBC>

足元の状況と中期計画の進捗を教えてください。

従来懸案だった小売事業も改善してきており、2016年度は持分損益ゼロを見込む。EBITDAについては、足元では当初計画から1~2割下回っている。計画からは若干ビハインドしているが、小売事業の黒字化をターゲットとする。

<豪州穀物事業>

豪州穀物事業の足元の状況及び今後の穀物事業の取り組み方針を教えてください。

足元では東豪州での干ばつの影響を受け、集荷が進まず、固定費をカバーできない状態となっている。食料ビジネスの中には、青果など強みを有するビジネスもあり、今後の穀物事業にどう取り組んでいくかは、目下検討中。

<バツヒジャウ>

2016年度の生産量が、2015年度に比べ落ちているのは何故か。

(高畑)バツヒジャウ鉱山については、インドネシア新鉱業法に向けて、6ヶ月毎に輸出許可を更新しているが、2016年5月以降の輸出許可更新の可否が不透明であることから、保守的に数量を減らしている。

以上